

皇民修身鑑

尋常科
生徒用

卷之二

檢定申請本

K120.1

33

2

K120.1

33

2

學海指針杜編

尋常科
生技用

皇民修身鑑

卷之二

版權所有

集英堂藏板

勅諭

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ
樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億
兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國
體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民
父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉
己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ
智能ヲ啓發シ徳器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ
開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義
勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ
如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ
爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン
斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民
ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ
中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ
咸其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名

御璽

長英敬書

皇民修身鑑

卷之二

第一

...

...

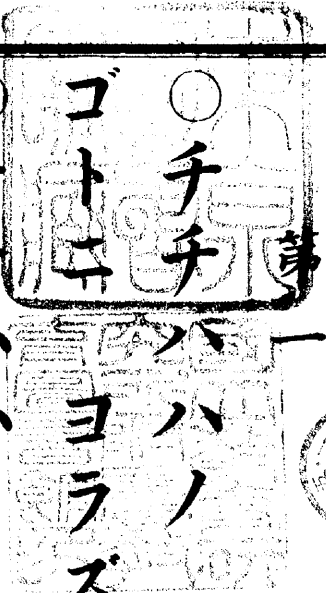
...

...

...

皇民修身鑑卷之二

學海指針社 編



○チチハハノオホセハナニ

ゴトニヨラズシタガフベシ

○チチハハノオホセニソム

クハフカウノヒトナリ

皇民修身鑑 卷之二

集英堂藏板

まつだひ
らよ
ふさよ
くねや
につか
ふ



○松平好房は、まつだひらよふさこごものときより、よく
やをだいに、なにごともちちははの
おほせに、ろむかざりけり。

第二

- アニヲバ、ウヤマフベシ。
- オトヲバ、カハユガルベシ。
- キヤウダイハ、タガヒニ、ナ

さんにんの
きやうだい
むつまじく
たるために
はうびをう
く



カヨク シタシムベシ。

○くまもごに、三人のきやうだいあり、
ろのなかむつまじかりければ、こくろゆ
ききて、たほくのほうびをくだされたり。

第三

- 玉ミガカザレバ、ヒカリナシ。
- 人マナバザレバ、チナシ。

れほはのど
きむねをさな
きときより
がくもんを
このむ



木野刀

○ユエニ、人ハ、ワカキトキヨ
リ、ガクモンヲ、ハゲムベシ。

○大江時棟おほえのときむねといふがくーやは、子こどもの
とき、うまをひきながら、本ほんをよみーにの
ちには、はかせといふものになれり。

第四

○ヨキコトハ、スコシニテモ

いーだか
んべい
りをひろ
ひーとこ
ろにかへ
す



セヨ。

○アシキコトハ、スコシニテモ
スベカラズ。

○石田勘平は、わが山にてちぐりをひろ
ひーに、ひごの山のくりなることをーり
ーかば、すぐにこれをかへーたりとぞ。

第五

○カタチハ、ツネニ タ、シク
セヨ。

○コトバハ、ツネニ ツ、シメ。

○蒲生氏郷がまふ うぢご郷、こどものときより、つねに
しゆくん 信長のぶながのはなゝをつつゝみて、きき
おたりしはば、信長のぶながの心がけをかんじ、の
ちに大みだいやうやうにとり立てられたり。

がまふ うぢ
さど ぞやう
ぎをたゝし
くす



小書房 松亭

第六

○シヤウチキニシテ、イツハル
ベカラズ。

○シヤウチキノ カウベニ、カ
ミヤドル。

○森蘭丸は、イヤウチキにして、かりにも
うろをいはざりければ、信長これをほめ

もりらんまる
イヤウチキ
にしていつは
らず



て、ある時^{かたな}ろの刀^{かたな}をあたへられたり。

第七

○アヤマチテハ、アラタムルニ、
ハバカルコトナカレ。

○アヤマチヲクイ、アラタム
レバ、アヤマチトナラス。

○伊藤東涯^{いとうとうが}よるあやまちて、ある家の天^{てん}



いとうど
うがいあ
やまちを
あらたむ

水桶すいけいを、けがしたれば、すぐに其そのあやまちをわび、その桶けいをきよめたりといふ。

第八

○師シハ 父母チチハハニカハリテ、ワレヲ ヲシヘタマフ オン人ナリ。
○師シヲウヤマフハ、父母チチハハヲウヤマフガ ゴトクセヨ。



うへすぎはる
のりゝをた
つとぶ

○ 上杉治憲は、たふとき人なりーに、ろの
 師 細井平洲をまねぎける時、みづからー
 ろのくるわろとまでいでむかへたり。

第九

○ 人ノクルシミヲ ミテハ、ア
 ハレミテ、コレヲ スクフベシ。
 ○ 人ヲアハレミ スクフハ、ヨ

すゞきう
 むもんね
 やこなさ
 けふかー



キオコナヒナリ。

○鈴木宇右衛門は、なさけある人なり、き
 きんごうに、こどきのきたれるをみて、其
 むすめも、うはぎをぬぎてあたへたり。

第十

○人ハ、ヨノナカノタメニ
 ナルコトヲ、ハカルベシ。



あめのみや
 かげゆぶ
 だうをつ
 くる

○ヨノナカノ タメヲ ハカル
ハ、人ノツトメナリ。

○雨宮勘解由あめのみや かんげゆ、一本いっほんのぶだうをみつけ、よくこれをうだてて、ふや〜かば、つひには、甲斐かひのくにの、ぶつさんとなれり。

第十一

○シユジンニハ、マコトヲ ツ

よく〜ゆ
どんにっ
かふ



精意

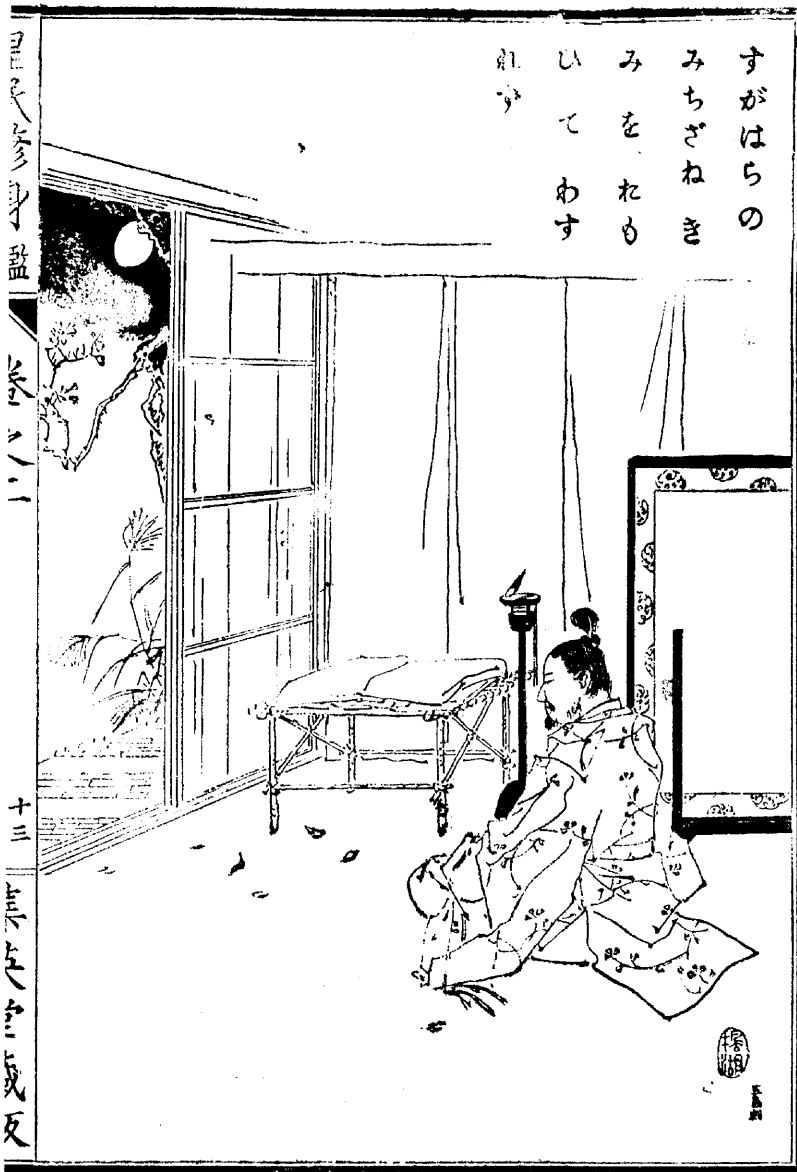
木野カ

皇氏傳身録 卷之三 第十一

クシテ、ヨク ツカヘヨ。
 ○シユジンノ ナンギヲ ミバ、
 ミヲ ステテ、スクヘ。
 ○久兵衛とぬひは、いゆどんのいへの、た
 ころへーとき、よくつかへーかば、たかみ
 より、はうびをたまはりたり。

第十二

すがはらの
 みちざねき
 みを、れも
 ひて、あす
 れが



○キミニ、チユウヲ ツクセ。
 ○キミノ ゴオンヲバ、ヨルヒ
 ルトモニ、ワスルルコトナカレ。
 ○道^{みち}真^{まこと}は、ちゆうぎのこころ、ふかかりけ
 れば、つくりにながされけれども、あけく
 れきみをしたひて、わすれざりき。

皇民修身鑑卷之二 終

竹外居士原田真書

明治二十五年十月五日印刷
 明治二十五年十月八日出版
 版權
 所 有

定價四錢五厘



著者 學海指針社

東京市日本橋區村松町七番地

發行兼 東京府平民
印刷者 小林八郎

東京市日本橋區通旅籠町十一番地

發賣所 集英堂本店

東京市日本橋區通旅籠町十一番地

賣捌所 集英堂支店

栃木縣宇都宮大工町

賣捌所 各府縣下書肆

